

SGH・礼文島事後研修「人類学者・今村薫先生を囲む会」

「世界観の民族誌 ～狩猟採集民の心～」

日時:平成 26 年 11 月 17 日(月)

講師:今村薫先生(名古屋学院大学 経済学部教授)

場所:桜ヶ丘会館3階

北極圏や砂漠に住む狩猟採集民の精神文化についての講義を受けました！



今村先生の講義



アフリカの狩猟民の弓矢

- 本日の講師は人類学者の今村薫先生。先生の研究テーマは、砂漠地帯の狩猟採集民や遊牧民の生活です。現地調査を通じての貴重なお話や、乾燥地帯と北極圏の狩猟採集民の生活の違い等について伺いました。
- カラハリ砂漠に住む狩猟採集民ブッシュマンの使う弓矢や棍棒、土掘り具等の道具を実際に見せていただきました。



関高生による礼文島調査のプレゼン



先生とのなごやかな談話会

- 関高生も礼文島調査のプレゼンを行いました。海洋狩猟民オホーツク人の遺跡や、国際共同調査の様子等について説明をしました。
- 会の締めくくりは今村先生を囲んでの談話会。今後の研究について話したほか、先生の得意技であるブッシュマン語の実演もあって大いに盛り上がりました。

■ 生徒の感想

世界の民族の中でも、北と南では狩猟の仕方が違ったりするのはもちろん、宗教的な考え方まで違っていることに驚きました。人が死んだら死者の魂へ行くという考え方もあれば死んだら土に戻るだけという考え方もあり面白かったです。僕は日本人のルーツを探っていきたいと考えているけど、宗教的観念からも日本人らしさというのについて見つめていきたいと感じました。

今村先生の話聞いて、**低緯度と高緯度での狩猟採集民には異なった世界観があることが分かりました。**低緯度地域のブッシュマンの社会では、肉への依存度が低く、また獣を狩るときはタブーは少なく肉食動物まで食べていることが分かりました。高緯度の地域では、肉への依存度が高く、またあらゆる自然現象には霊が宿っているなどの価値観があることが分かりました。また、死についても低緯度と高緯度とでは考えが違い、ブッシュマンの社会ではあっさりとした考えで死んだら土にかえらなくなっていきますが、高緯度の地域では、死ぬと靈魂となりその中の幸運なもの人間として再生すると考えられています。高緯度の地域は、霊の考え方が強く、シャマンと言う人間でありながら霊の世界に行き動物の霊と交渉する存在がいたり、また、守護霊の存在を強く信じていることが分かりました。**今回の話を聞いて高緯度の地域と低緯度の地域での相違点がとても面白かったです。**礼文島ではおもに高緯度の文化を中心に学習しましたが、低緯度の地域の狩猟採集民と比較してみると、**元は同じ場所から出発し狩猟採集という同じような生活をしているのに、住む地域によってさまざまな異なった価値観が生まれ、とても興味を持ちました。だからもっと詳しく高緯度の地域と低緯度の地域を比較した話を聞いてみたいと思っ**たし、とても関心を持ちました。

今日は、世界の狩猟民の話聞くことができるとも驚くことばかりでした。まず、私は、アイヌのような、熊送りなどの魂を大切にすることは狩猟民族に共通して持っているものだと思っていました。しかし、同じ狩猟民族でもブッシュマンは死後の世界を信じていなくて、あまり魂の存在を考えていないことを初めて知り驚きました。動物が神からの贈り物だという考え方は狩猟民族でも、特に北方の食料が少ない所で暮らす人々が生み出したものだということが分かりました。また、**今村先生のブッシュマン語を聞いて、クリックランゲージという言語の種類があることに驚きました。**そして、カザフ語は家畜を表現する言葉が多くあること、ブッシュ語は歩く、という言葉が多くあることを聞いて、**言語と生活は密接な関係があると思いました。**

薫先生の話で、今まで聞いたことのない南の方の人々についても知ることができました。礼文島で多くの知識を身に付けたつもりでしたが、こうして北と南で比べて考えるのも面白いなと感じました。**狩猟採集民の道具も実際に見せてもらって勉強になりました。**ありがとうございました。機会があったら海外の生活や1年間の民族生活について、より聞きたいです。

勉強会では世界観の民族について知られて、とても勉強になりました。話を聞いた中で特に心に残っているのは、熊送りの話です。礼文島で出会った講師の先生からもこの話について教えていただいたので、さらに詳しいことを知られたと思います。「動物が人間界にやってくる。熊の子を大切に育ててから殺す。そして祭りごとをして、丁寧にあの世に送り出すと、また人間界にやってくる。」という話は興味深かったです。**ブッシュマンの言語も、ある一定の言葉が発達していて、「歩く」という言葉だけでも30種類以上の言い方があることに驚きました。今後は「国際的な人達が集まる中でどのように交流していくか」について研究するつもりです。**先生に教えていただいたことも参考にしながら、研究を頑張っていきたいと思っています。貴重な時間をありがとうございました。また機会があったら、ぜひお話を聞きたいです。